

都市再生整備計画 事後評価シート
新船岡地区

平成30年2月

宮城県柴田町

様式2-1 評価結果のまとめ

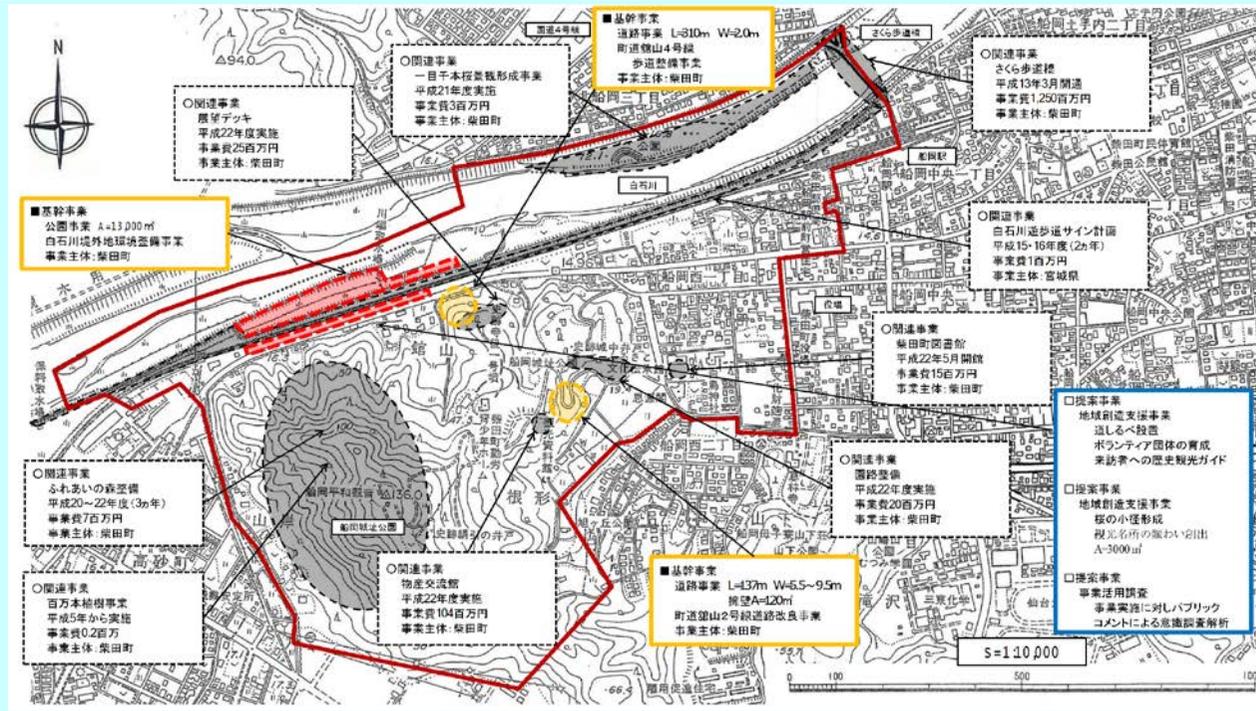
都道府県名	宮城県	市町村名	柴田町	地区名	新船岡地区			面積	113ha				
交付期間	平成23年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	362	国費率	0.4						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路:町道館山2号線道路改良事業 公園:白石川堤外地環境整備事業										
		提案事業	地域創造支援事業:歴史観光ガイド育成 事業活用調査:事業評価										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	なし										
	新たに追加した事業	基幹事業	道路:町道館山4号線歩道整備事業		船岡城址公園と白石川堤の一目千本桜を展望しながら歩ける空間が確保され、船岡城址公園の来訪者数の増加が見込めるため。		影響なし						
		提案事業	桜の小径形成事業		一般公募による整備検討会の意見を反映させたため事業を追加		影響なし						
交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	目標年度の延長に併せ、数値目標の達成時期を修正した。									
変更		平成23年度～平成28年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	船岡城址公園来訪者	人	223,024	H22	255,000	H28	272,938	292,524	○	あり なし	回廊拠点ルート整備と併せて歴史観光ガイド活動など一体的整備効果により来訪者の増加につながった。	
	指標2	船岡城址公園への大型観光バス乗り入れ台数	台	324	H22	375	H28	156	200	△	あり なし	● 数値目標が達成していないのは、回廊拠点ルート整備等により、観光客の滞在時間が伸び、駐車場の回転率が低くなったことが、乗り入れ台数の減少の要因と考えられる。また、道路改良事業により大型バスの安全な通行が可能となり、効率的な来訪者の乗入を考慮し、シャトルバスを運行したことも要因と考えられる。これを補完する指標(その他の数値指標1)として、シャトルバス運行台数を設定して評価する。	
	指標3	ノルディックウォーカーの年間延べ活動人数	人	1,188	H22	1,310	H28	1,824	2,448	○	あり なし	船岡城址公園内の花木の充実や園路のバリアフリー化など、歩行環境が充実した。併せて、しばた千桜橋などの「花(桜)回廊」の整備により、市街地内の歩行環境が向上したことが、要因の一つ考えられる。	
	指標4									あり なし			
指標5									あり なし				

	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値									
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	臨時駐車場から船岡城址公園へのシャトルバス運行台数	台	0	H22	/	/	397	446	/	/	町道館山2号線道路改良事業により、大型観光バスの安全な運行が可能となったが、船岡城址公園駐車場での来訪者の交通安全を考慮し、シャトルバスの運行を行なった。道路改良の効果があり、シャトルバスの運行もスムーズに行われ、大型観光バス乗り入れ台数の目標値を大幅に上回る運行台数を達成した。				
	その他の数値指標2	船岡城址公園来訪者数(通年)	人	234,864	H22	/	/	350,626	414,877	/	/	本事業を通して、さくらの季節以外にも花を味わえるよう、花木が充実し、紫陽花まつり、曼珠沙華まつりなどのイベントが開催され、通年で来訪者数も増加につながった。				
	その他の数値指標3	柴田町観光物産交流館利用者数(人)	人	54,073	H24	/	/	64,978	84,359	/	/	平成23年5月にオープンし、柴田町の観光物産の情報発信の場として、また、人の交流拠点として活用されている。				
	その他の数値指標4	歴史観光ガイドの会員数(人)	人	8	H23	/	/	5	17	/	/	歴史観光ガイド育成ワークショップスタート時は、8人で行われたが、年々参加者数が増加し、歴史観光ガイドボランティア団体の会員数は、17人へと拡大した。				
	その他の数値指標5															
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の事業をきっかけに、町の公園整備で、初試みの住民参加(ワークショップ)による検討が行われ、ユニークな街区公園が実現した。また、維持管理にも焦点を当てたワークショップを実施したことにより、ワークショップ参加者から公園の維持管理ボランティアへと関わりを形を変え、地域コミュニティが育まれている。 ・歴史観光ガイド育成ワークショップでは、歴史案内看板等の検討成果を4月に開催されるしばた桜まつりで実際に設置・活用してレビューし、結果をフィードバックして、次年度ワークショップで活かすことにより、観光客の声へ対応しながら、町の魅力を発信する取り組みに繋がった。 ・本事業のワークショップ組織が母体となり、柴田町民による初の観光ボランティア団体となる「しばた歴史観光ガイドの会」が発足された。また、活動メンバーは、観光ボランティア以外にも、まちづくりやイベントの委員として参加するなど、柴田町の魅力向上のキーマンとして活躍している。 ・白石川千桜公園としばた千桜橋は、柴田町の知名度を向上させ、インバウンド事業の誘客に貢献している。 															
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	指標の達成状況の確認		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●			達成状況を確認することは、事業の効果を適切に評価するうえで、効果的であるため、今後ともモニタリングを実施しながら、さらに細分化してモニタリングを行う。					
	住民参加プロセス	歴史観光ガイド育成 公園整備管理ワークショップ (仮)さくら連絡橋デザイン及び周辺環境整備検討会		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●			歴史観光ガイドの仕方等を検討するワークショップを実施したことにより、柴田町民による初の歴史観光ボランティア団体の設立に発展した。公園整備管理ワークショップを実施したことにより、公園を維持管理する公園愛護協会の管理団体設立の基礎となった。(仮)さくら連絡橋デザイン及び周辺環境整備検討会により、住民参加のまちづくりが行われた。					
	持続的なまちづくり体制の構築		歴史観光ボランティアガイドへの活動支援 公園愛護協会への活動支援 船岡城址公園の一元化された管理方法・組織の検討				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●			今後とも、町の魅力向上に資する活動として継続するように、町として後方支援を行う。街区公園は、公園愛護協会の活動が円滑に行われるように、町として後方支援を行う。船岡城址公園は、様々な部署で事業が行われていることから、その維持管理を効率的に行えるよう、一元化された組織作りも必要である。		

様式2-2 地区の概要

新船岡地区(宮城県柴田町) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標: 人と人が行き来する、歩いて楽しい魅力的なまちづくり 目標1: 脆弱な都市施設を更新して交通の利便性と安全性の向上に努める。 目標2: 美しく、花と緑が織りなす魅力あふれる景観づくりに努める。 目標3: 人が主役となり、楽しみながら歩いて暮らせる都市空間を創出して、「花(桜)回廊」の充実を図って地域力の向上に努める。	船岡城址公園来訪者数	単位: 人	223,024 H22	255,000 H28	292,524 H28
	船岡城址公園への大型観光バス乗り入れ台数	単位: 台	324 H22	375 H28	200 H28
	ノルディックウォーカーの年間延べ活動人数	単位: 人	1,188 H22	1,310 H28	2,448 H28
		単位:	H	H	H
		単位:	H	H	H



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 船岡城址公園及び一目千本桜周辺は町の観光資源として確実に進展し、柴田町における賑わいづくりの核になっている。 しばた千桜橋の整備により、船岡駅から一目千本桜、船岡城址公園、船岡市街地の回遊性の実現され、船岡城址公園の来訪者がしばた桜まつりの期間のみならず通年を通して増加した。 訪日外国人の増加とともに、柴田町においても海外からの来訪者が増加し、外国語での案内の需要が高まっている。 健康志向の高まりに併せて、ノルディックウォーキングを楽しむ人の数が増加し、来訪者のみならず町民もまち歩きを行う人が増えている。 町民、そして来訪者に柴田町の魅力を伝えるために、柴田町民による初の観光ボランティア団体が設立され、町民自ら町の魅力を発信する活動が開始されている。また、ノルディックウォーカーの団体数も増え、団体の維持、継続が課題となっている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 主たる基盤整備(ハード)は進展し、今後の効果の持続は活用方策(ソフト)の充実にかかっている。 まちのイベント活動では、商店街との連携が求められているが、昨年度からは、創業者支援事業への参加者がさくらマルシェの実施主体となり、これまでになかった新しい人材も育ちつつある。 賑わいの持続、発揮するためには、観光ボランティア団体、ノルディックウォーカー団体、まちの活性化の新たな主体、それぞれの活動の他、団体の交流も必要と考えられる。 柴田町の魅力向上により、来訪者の増加につながっているが、観光ボランティア主催による歴史観光ガイドツアーでは、歩行者の交通安全面での課題があり、まち歩きを楽しむようにするためには、人と車が共存できるような環境づくりに取り組む必要がある。 船岡城址公園は、様々な部署により事業が行われ、魅力が向上してきたが、維持管理においては、不効率な点も見られるため、維持管理の一元化された取り組みが必要と考えられる。 船岡城址公園の魅力でもある自然を大切に守りながら、整備・維持管理を行っていく必要がある。